

安全データシート (SDS)

作成日 2007年4月10日
改訂日 2017年2月24日

1. 化学品（製品）及び会社情報

製 品 名 : JA-900 フッ素樹脂フィルム貼ガラスクロス
会 社 名 : 株式会社ジャパンアイビック
会 社 住 所 : 〒262-0045 千葉県花見川区作新台5丁目4番1号
担 当 部 門 : 開発営業部
電 話 番 号 : 043-259-9461
F A X 番 号 : 043-259-9571
緊 急 連 絡 先 : 043-259-9461
推 奨 用 途 : 空調用たわみ継手材料／一般工業用
整 理 番 号 : 0010

2. 危険有害性の要約

分類の名称：該当なし

P T F E : 危 険 性 : 該当なし

: 有 害 性 : P T F E を長時間 260℃以上に加熱すると、ポリマーヒューム熱の原因と考えられる微粒子状物質を発生する。約 400℃で微量のフッ化水素及びフッ化カルボニルを発生し、更に高温では多量に発生する。

: 環境影響：該当なし

分類の名称：該当なし

ガラス繊維（Eガラス）

: 危 険 性 : 該当なし

: 有 害 性 : 該当なし

: 環境影響：該当なし

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区分：フッ素樹脂フィルムとガラス繊維（Eガラス）の貼り合せ混合物

化学名：四フッ化エチレン（ポリテトラフルオロエチレン、以下P T F Eと略）

アルミナ硼珪酸ガラス

組成および含有量

成分名	C A S No.	化審法番号
P T F E	9002-84-0	6-939
アルミナ硼珪酸ガラス	65997-17-3	————

4. 応急措置

目に入った場合：清浄な水で洗う。もし痛みが続くようであれば、医師の診断を受ける。

皮膚に付着した場合：絶対にこすらないで下さい。水洗・浴槽・シャワー等及び石鹼を用いて清浄な水で洗い流す。もし異常が継続する場合は医師の手当てを受ける。

吸 入 した 場 合 : 清浄な水で十分にうがいを行なう。P T F E の加熱又は燃焼によって生じるヒュームを吸入した場合は、新鮮な空気の場合に移す。もし異常があれば医師の手当てを受ける。

飲 み 込 ん だ 場 合 : 吐き出させ、水でよく口を洗う。何らかの異常が見られた場合には医師の診断を受ける。

5.火災時の措置

消火方法：P T F Eの熱分解ガスに注意し、防毒マスクを着用し消火に当たる。

消火剤：水又は通常の消火器を使用する。

6.漏出時の措置

人体に対する注意事項：特別な問題はないが、漏出したものを集めて回収する。付近の着火源となるものを速やかに除くこと。

7.取り扱い及び保管上の注意

取り扱い：吸い込んだり、眼、皮膚にできる限り触れないようにする。

火気厳禁とし、通風・換気の良い場所にて行なうこと。

P T F Eの加熱の恐れがあるため、作業場は禁煙とすること。

保管：直射日光、水漏れ、温度変化の少ない一定の場所を定めて保管すること。

8.暴露防止及び保護措置

設備対策：ガラス繊維は粉塵の発生する切断作業などを行なう場合及びP T F Eは260℃以上に加熱する工程では局所排気装置等を設置する。

管理濃度：P T F Eは設定なし。

ガラス繊維製品は鉱物に該当し、粉塵則の規定に該当する作業場の場合は、遊離珪酸が0%であるから吸入性粉塵管理濃度は2.9 mg/m³となる。

許容濃度：吸入性粉塵：2 mg/m³（勧告値）日本産業衛生学会

総粉塵：8 mg/m³（勧告値）日本産業衛生学会

TLV-TWA：5 mg/m³ A C G I H

保護具：呼吸用保護具…防塵マスク（国家検定品）

保護眼鏡：ゴーグルタイプ

保護手袋：皮手袋等ガラス繊維を通しにくいもの

その他：保護衣、保護長靴等

9.物理的及び化学的性質

外観：ガラス繊維とフッ素樹脂フィルム

臭気：なし

軟化点：ガラス繊維は840℃

融点：P T F Eは327℃

溶解性：水に溶解せず

10.安定性及び反応性

安定性：通常の手扱いにおいては安定。

反応性：標準状態では危険な反応はないが、260℃以上で極めてゆっくり分解を始める。

11.有害性情報

刺激性：ガラス繊維は直接接触時に物理的的刺激はあるが、毒性はない。

その他：（P T F Eの熱分解による）人の健康への影響

P T F Eを260℃以上に加熱すると有害なヒュームが発生する。ヒュームを吸引すると、「ポリマーヒューム熱」と言われるインフルエンザのような症状が現れる。頭痛、関節の痛み、一般的不快感、発熱、咳、悪寒、心悸亢進及び胸部不快感を生ずることが特徴である。この症状は、数時間の潜伏期間において現れ、24～48時間続くことがある。

400℃以上の分解で生成するフッ化カルボニルは、吸引、飲み込み、皮膚又は眼への接触により初期に不快感又は発疹を伴った皮膚刺激、角膜又は結膜潰瘍を伴った眼腐食、呼吸器系の刺激、一時的な肺刺激を起こす恐れがある。

フッ化水素は、低濃度の吸引では、初期に窒息、咳の症状があらわれ、眼、鼻、喉に対して重度の刺激を与える。長期的に暴露すると肝臓及び腎臓を損傷する。

12.環境影響情報

生態影響についてはデータなし

13.廃棄上の注意

廃棄物専用容器等により保管する。

廃棄する場合は焼却せず埋め立て処分するが、その場合は「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」（廃棄物処理法）の区分に従って処理すること。

14.輸送上の注意

特がない

15.適用法令

P T F Eは特がない

ガラス繊維は危険有害性分類基準の対象法令に該当しない。関係法令等には次のものがある。

- ・粉塵障害防止規則別表1の第6号の鉱物（ガラス繊維）を裁断等する場所において作業を行なう場合には、労働安全衛生法施行令の規定に定められた「粉塵障害防止規則」が適用される。
 - ・労働省労働基準局長基発第1号平成5年1月1日「ガラス繊維及びロックウールの労働衛生に関する指針」
 - ・労働省労働基準局長基発第162号平成12年3月24日「労働安全衛生法及び作業環境測定法の一部を改正する法律の施行について」
労働安全衛生法57条の2第1項の政令で定めるものとして、同法施行令別表第9に「人造鉱物繊維」があげられているが、この通達によりガラス長繊維は対象外とされている。
-

16.その他の情報

参考文献

「フッ素樹脂取扱い手引書」日本フッ素樹脂工業会（1994）

「フッ素樹脂ハンドブック」日本フッ素樹脂工業会（1994）

「ガラス長繊維の人体に及ぼす影響」ガラス繊維協会（H5年3月）

記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しており、新しい知見により改訂されることがあります。また、注意事項は通常の取り扱いを対象としたものであって、特殊な取り扱いをする場合は、用途、用法に適した安全対策を実施の上、ご使用ください。

記載内容は情報提供であって、保証するものではありません。
